

宮城県立石巻好文館高等学校 社会人講話（原稿）

皆さん、こんにちは。私は、石巻消防署西分署に勤務している佐々木と申します。西分署は、去年5月に開設されたばかりの新しい消防署で、石巻市向陽町五丁目にあります。あけぼののアメリカ屋の東側です。私はそこで今年の4月から勤務していて、3月までは双葉町にある石巻消防署南分署にいました。ここから1番近い消防署です。好文館高校は南分署の管轄なので、昨年度までは避難訓練や救急講習などでもお邪魔したことがあります。また、この学校には私も高校3年間お世話になりました。私が通っていた頃は「宮城県立石巻女子高等学校」という名前で、卒業した年に今の校名に変わりました。部活は弓道部に所属していました。今日ここにいる皆さんは、進路として公務員を視野に入れているということで、少しでも参考になればと思いますが、私の体験談や、現在の職業についてお話しします。

皆さんは、「公務員」というとどのようなイメージがありますか？公務員とは、読んで字のごとく公に務めるという意味で、利益のためではなく公共のために仕事をします。国家公務員や地方公務員、自衛隊や警察官、市役所職員など、様々な職種が存在しますが、私のイメージは「身体を張って人を助ける仕事」でした。もちろん事務系の仕事もたくさんありますが、私の中では公安系のイメージが強かったです。一種の憧れのようなものがありました。しかし最初は特に目指していたわけでもなく、同級生のほとんどがそうだったように高校入学時は大学への進学を考えていました。そんな高校時代に、2度の大地震がありました。平成15年の宮城県北部連続地震と、平成16年の新潟県中越地震です。

1度目、宮城県北部連続地震の時は、建物が倒壊するなど、私の住んでいる地域も大きな被害を受けました。街中を走る消防車やパトカーを何度も見たのを覚えています。

2度目、新潟県中越地震の時は、直接の被害は受けていませんが、新潟県に親戚が住んでいるため関連のニュースはよく見ていました。その中で、レスキュー隊員が土砂の中から幼い男の子を助け出したというニュースが流れました。男の子を抱き上げた瞬間のレスキュー隊員の姿は、今でも深く印象に残っています。

この2つの出来事が、私に1つの選択肢を与えてくれました。それが、「消防士」という道でした。実際に「人を助ける」姿を目の当たりにし、またモニター越しに感じた命の大切さから、自分も同じことがしたい、自分も将来こんな仕事がしたいと思うようになりました。

捕捉ですが、皆さんがよく耳にする「消防士」とは、実は職業ではなく階級のことを指します。私の職業は「消防吏員」といいます。今回は分かり易いように「消防士」で統一してお話しします。

進路を明確に「消防士」と定めた頃には、私は高校3年生になっていました。消防士になるには、大学や専門学校などを卒業してからというルートもありましたが、職業柄体力的な場面が多いことなどを踏まえ、高校卒業後の就職を決めました。

消防の採用試験は、筆記試験の他に体力試験があるため、進路指導の先生にご指導を戴く傍ら、体育の先生にもお願いして体力トレーニングについてアドバイスを戴きながら並行して行いました。(体育の佐瀬先生に指導を受けた話) 筆記試験については、書店で販売されている公務員試験のテキストの中から自分で使い易いものを選んで購入し、勉強しました。そうして臨んだ試験に合格し、私は今の職に就きました。

消防士になって最初に気付いたのは、「女性消防士が自分の他に1人しかいない」ということでした。女性の警察官はごく当たり前に見かけるため、消防士も同じような割合であると思いついていましたが、実際フタを開けてみると、当時の消防本部の全職員約350人の内、女性消防士はたったの2人でした。業務内容に男女間の差は特にありません。

新規採用された消防士は、初めの1年間、宮城県消防学校という全寮制の学校に入校して、消防士として必要な知識・技術・体力などを身に付けるため、厳しい教官たちの指導の下でみっちり訓練をします。宮城県内には12の消防本部があり、各消防本部の新規採用者は全員この学校で1年間一緒に学びます。入校期間の内、最初の半年間で基礎的なことを学び、続く1ヵ月間で救助技術、間に消防署での実務研修を挟んで、残りの2ヵ月半で救急について学びます。なお、入校期間は宮城県は1年間ですが、他都道府県ではそれぞれ異なるようです。

私が入校していた時のことを紹介します。同じ年に消防学校に入校した消防士は66人いて、その内5人が女性でした。学校での生活は細かく時

間管理されていて、起床や消灯はもちろん、食事や入浴の時間も決められていました。それ以前では体験したことのないくらい規則正しい生活を1年間送ることができました。

1日の大体の流れも紹介したいと思います。季節によって若干異なりますが、起床時刻は6：30でした。起きてすぐに外に全員集合し、消防体操という体操をしてからランニングをします。朝食は全員で摂り、食事が済んだら制服に着替えて教官室へ朝の挨拶をしに行きます。挨拶は1人ずつ「おはようございます」と言い敬礼をするだけですが、この時に身だしなみなどもチェックされ、靴が汚れていたり挨拶の声が小さかったりすると、何度でもやり直しをさせられました。この後から、学校での1日が始まります。内容は座学と訓練で構成され、校外へ研修に行くこともあります。座学というのは高校でいう英語や数学などの座って行う授業、訓練は体育のような身体を動かす実技の授業と考えて下さい。1日中座学の日もあれば、訓練のみの日もあります。ここで習得する知識や技術が、そのまま実際の現場で生かされることとなるため、みんな本番さながらの緊張感を持って臨みます。

消防学校に入校中の消防士は「学生」と呼ばれます。学生は入校時に「隊」というグループに分けられ、1年間ずっと同じグループで訓練を行います。また、学校を卒業して消防署に配属された後も、消防士は必ず単独ではなく「隊」で任務をこなします。チームワークは消防士にとってとても重要なものであり、1人の勝手な行動が原因で任務が失敗してしまったり、場合によっては命の危険にさらされることもあり得ます。そのため、学校の訓練でも隊の1人の責任は全員の責任です。連帯責任といいますが、もし隊の誰かが失敗や危険な行為をしてしまった場合はペナルティーが科せられ、その1人だけではなく、隊の全員が罰則を受けます。始めはそうしてお互いの足を引っ張り合い、連携も上手くいかない状態ですが、人間は失敗から学び次に生かすことが出来る生き物です。訓練を繰り返す内、個々の能力向上によりペナルティーが減り、それによって隊のチームワークも取れてきて、全体的に段々良くなっていきます。

学校は17：00頃に終了し、それから消灯時刻までは各自トレーニングや勉強をしたり、休憩の時間となっています。校外ランニングコースが定められていて、それ以外での外出は決められた曜日・時間にしか出来ま

せん。夕食と入浴は決められている時間内に済ませます。消灯前に点呼があり、22:30に消灯です。消灯後は当然部屋から出ることは出来ません。次の日の訓練に備えてしっかり休みます。

基本的にはこの流れで、学校以外の時間は敷地内において自由時間なのですが、この他に不定期で行われる訓練もあります。消防士は、火災や救急、救助などの突発的な災害対応が仕事です。そのための訓練として、学校では何の前触れもなしに突然出動指令がかかります。ここでの出動指令とは、放送で教官から指示を与えられ、隊ごとにその任務をこなせば成功、というものです。もし失敗してしまったりした場合は、通常の訓練と同じようにペナルティーが科せられます。もちろん自由時間や消灯後に指令がかかることもあるため、いつ何時でも気を抜かずに過ごさなければなりません。

消防学校は全寮制で、学校の外へ出られるのは基本的に土日祝日だけです。金曜日の訓練を終えた後に出寮し、日曜日の夜には寮に戻らなければなりません。日曜日の夜にも点呼があるので、それまでに入寮し、翌日の訓練に備えて準備をします。

ここまでの話では辛い訓練漬けに聞こえる消防学校には、体育祭や研修旅行のような行事や、部活動のようなものまであります。内容も消防学校ならではのので、ここでしか体験できない、楽しさや苦しさを味わうことができます。このように、同じ志を持った仲間たちと1年間様々な経験を積み、無事に卒業することができれば、いよいよそれぞれの現場へと配属されていきます。私も何とか1年間を乗り切り、卒業証書を受け取ることができました。

さて、ここからやっと1人前の消防士としてやっていくことになります。よく友人などに、消防署は火災などがない時は何をしているのか、と聞かれることがあります。私も自分になる前は同じことを思っていました。災害出動は消防の業務のごく一部に過ぎません。災害がなくても、避難訓練や救急講習の指導や、新しい建物が建った時にそこに設置される消火器などの消防用設備の検査に行ったり、また災害出動に備えて自分たちの訓練をしたりと、割と忙しいです。今日ここで皆さんにお話ししているように、防災講話等の依頼があったりもします。消防署に配属されて1年目は、業務内容を覚えてそれについていくだけで大変でした。

私が1番最初に配属されたのは、大橋一丁目にある石巻消防署でした。屋上にお天気タワーが建っている大きな消防署で、庁舎の2階が石巻消防署、3階が石巻消防本部になっています。お天気タワーが夜になるとライトアップされるのは皆さんご存知ですか？翌日の天気が晴れだとオレンジ色、曇りだと白、雨か雪だと緑色寄りの青にライトアップされます。因みに、点灯時間は日没5分前から22：00までです。

消防署の勤務は、毎日勤務と隔日勤務に分けられます。毎日勤務というのは、会社員などと同じように朝出勤して夕方まで働く体制です。勤務日はカレンダー通りで、平日働いて土日祝日は休みです。勤務時間は8：30から17：15までとなっています。隔日勤務というのは、消防署ではこの勤務体制の割合が圧倒的に多いのですが、1日働いて、次の日の1日は勤務しないというものです。勤務日を当番、勤務しない日を非番といいます。この他に、毎日勤務という土日のような公休日があります。勤務時間は8：30から次の日の8：30までになります。なお、非番や休みの日であっても、災害等発生した場合に招集がかかることがあるので、常に連絡が取れるようにしておかなければなりません。

消防署の1日を、隔日勤務をモデルに紹介します。隔日勤務者は2つの班に分かれていて、1日ずつ交替で勤務しています。朝の8：30に勤務交替というものが行われ、そこから1日の勤務が始まります。勤務交替では、消防車や救急車に異常がないかを点検し、出動態勢を万全に整えます。災害出動には車両が不可欠のため、毎日行われる大切な作業になります。交替後は、前日に勤務していた班は非番となり、次の日の勤務に備えて各自調整します。

消防署の業務は、先ほどもお話しした通り、訓練や講習での指導、建物の検査など様々です。会社員のように机でパソコンに向かって行う作業も多々あります。現場対応の訓練も継続して行っていて、これらの日常業務に加えてさらに災害出動をします。業務はあらかじめ時間調整などをして、効率よくこなせるようにスケジュールを組みますが、出動指令だけはいつかかるか完全に予測不能です。一旦出動指令がかかれば、行っていた他の一切のことを中断し、出動しなければなりません。

私の所属する石巻地区消防本部では石巻市・東松島市・女川町の2市1町を管轄しています。この石巻地区の119番通報は、大橋にある消防本

部の消防指令センターで全て受け付けていて、その時の条件にもよりますが、そこで全14の消防署の中から災害現場に1番近い消防署の隊が選定され、出動指令が流される仕組みです。119番通報は1日平均30件ほど寄せられ、多い日で100件を超えたこともありました。勤務している西分署では現在、管轄の蛇田地区で宅地造成が進んでいて、人口が増えてきているに伴い、特に救急出動件数は全署所の中でもトップです。

私は、現在は主に消防車で出動していますが、今年3月までの南分署では消防車と救急車を大体半々くらいで乗っていました。消防車で出動する消防隊は3～5人、救急隊は3人です。救助工作車や梯子車で出動する特別救助隊は3～4人で、石巻消防署と矢本消防署だけに配置されています。消防隊は消防士ならば誰でもなれますが、救急隊と特別救助隊は資格や選抜試験に合格しなければなりません。消防学校で「隊」ごとに訓練していたように、実際の現場でも同じく消防士は「隊」で動きます。隊の中でもそれぞれ役割があり、分隊長や車両の運転手などは資格がなければできません。そのため、その日の勤務員の中から資格の有無によって「隊」に振り分けられ、日によって出動する車両が変化することがあります。

災害出動は、出動したら終わりではありません。火災・救急・救助など、全ての事案で活動の記録を必ず残します。なぜ今回の火災は起こってしまったのか？原因究明をしてそれを細かく書類に残すことで、火災予防や類似の事案での現場活動など、次に生かせるのです。

消防署は24時間体制で勤務しているため、夕食は自分たちで作ったり、出前を取ったりします。私も消防士になってからたくさんの料理を覚えめました。食べる量は、体力的な業務も多いので普通のご家庭よりは多いかと思えます。夜は残っている仕事を済ませたり、合間を見て自主トレーニングをする人もいます。消防の仕事は身体が資本なので、体力の維持・向上は必要不可欠です。トレーニングを非番や休みの日に行っている職員も多く、私もなるべく欠かさないようにしています。仮眠時間は22：30～5：00までです。あくまで「仮眠」なので、有事の際は即対応できる状態になっています。朝は起床後に庁舎や車両の清掃を行い、次の班への引き継ぎの準備をして、8：30に勤務交替となります。そして非番で体調を整え、また次の勤務に備えます。

配属されてから今までには数え切れないほどの出動を経験しました。最

も印象に残っているのは、やはり5年前の東日本大震災の時のことです。平成23年3月11日。その日私は勤務していませんでした。当時は石巻消防署に配属されていましたが、地震発生後は津波などの影響で参集することができず、一旦最寄りの消防署へ行き、翌日石巻消防署に向かいました。管内では地震発生後にあちこちで火災や救急事案が発生していて、署の消防車と救急車は出動の際に津波に巻き込まれたことをその時知りました。乗っていた消防士は全員無事でした。消防の業務に車両は不可欠です。火を消すにも、怪我や病気の人への応急処置を行って搬送するにも、消防車や救急車が無くてもは困難になります。しかし流された車両はスクラップとなって見つかри、津波による浸水でそもそも車を動かせる状況ではありません。私たちは限られた資機材・設備を最大限に生かし、あとは身一つでその未曾有の災害に対処しなければなりませんでした。

震災によって発生した大量のガレキは仮置き場に集められ、全て処理されるまでには時間を要しました。高く積み上げられたガレキは、長期間置かれたことで内部から自然発火し、あちこちの仮置き場で火災が多発しました。ガレキの中には消火しにくい布団などが含まれ、それが大量に積み上げられているために、火災鎮火は困難を極めました。私が出動した中で最長だった火災は1週間燃え続け、休みの職員にも招集がかけられて昼も夜も交替でずっと消火にあたっていると記憶しています。

高校を卒業してから消防士になり、私の生活、世界はそれまでと180度変わりました。始めは何も分からず、何もできませんでした。消防学校の教官・同期、配属されてからは同じ職場の上司・先輩に指導いただき、支えられて今までやってこられました。1つのきっかけから目指した消防士ですが、他では味わえないやりがいのある仕事です。皆さんもこれから、目指すものを見つけて、あるいはもう決まっている方もいるかと思いますが、後からやって良かったと思えるような進路選択をして欲しいと思います。

以上で私の話を終わります。何か質問等ありますか？

聞いていただき、ありがとうございました。